

問題 次の文章をふまえ、他人に対して適切な「非難」や「批判」を行うということについて、あなたの考えを六〇〇字以上八〇〇字以内で記しなさい。なお、適切な題目も付けること。

「非難」や「批判」ということばは、世間的にはあまり評判が良くないようです。しかし、それは適切な非難と誹謗や難癖といったことばによる攻撃とをはっきり区別することに失敗しているからだと思えます。ここではその区別をつけてみましょう。

(中略)

誹謗や罵倒、あるいは陰口や中傷などは、細かい条件が異なる、悪口一般の変種として理解することができます。たとえば、「陰口」は基本的に悪口と同じで、誰かについて劣っている、ランクが下だと言うことですが、「言う側は、標的自身が発言を聞いていないと思っている」という条件を追加する必要があります。「陰」で言わなければ(あるいは少なくともそう思っていないければ)、「陰口」にはなりようがないからです。

非難するとき、誰かに非がある、良くないところがあると指摘することになるため、悪口のように優劣を示してしまふ、と思われるかもしれません。しかし、適切な非難は単に人の劣ったところを指摘するものではないのです。

適切な非難は、「後ろ向き」(backward looking)であると同時に「前向き」(forward looking)である、と言われます。まず、後ろ向きであるのは、過去に行った悪いことを指摘するからです。あなたはこういう良くないことをしました、しています、とできれば理由も言いつつ示します。

非難が前向き、つまり未来志向であるのは、今後どうしたらよいのか、どうすべきなのかの指針も提示して、非難の対象に、これまでのふるまいを反省して、これから変わっていく機会をも与えるからです。一種の教育の可能性を持っているため、非難は前向きであると言えます。

単なる罵倒や悪口なら、前向きな面を持つ必要があります。標的をコミュニティの中で下位において、自分の道具として利用したり、あるいはそもそも同じコミュニティから排除することが目的だからです。その人が反省しようとしまいと、まったく問題ではありません。出て行ってもらうだけだからです。

適切な非難は異なります。非難の相手と同じ立場の存在だと考えているならば、これからもずっと同じ立場で、同じコミュニティの中で、仲良くなくてもつき合っていかなければならない人物とみなしています。それならば、もし良くない振る舞いをしてきたならば、それはやめてもらいたい、これまでの行いを反省して、今後はそうしないようにしてもらわなければなりません。ですので、こうした方がよいですよ、そうしたら歓迎しますよ、という態度を表明しなくてはなりません。

適切な非難や批判を自分への誹謗中傷だととらえてしまう人は、非難の前向きな側面が見えていないからだと思われる。非難の後ろ向きな部分だけなら、確かに悪口や誹謗とそれほど違いはないかもしれませんが。いかに間違ったことをしたか、いかに正しくないのか、という指摘は、そうでない人との比較を含めると、自分が劣っているとされていることになるからです。

見方を変えれば、不適切な非難や、意味のない叱責のようなものは、前向きな要素が少なすぎることになりまふ。今後どうすればよいのかの行動指針がはっきりと示されていなかったり、あなたは同じランクの仲間であり、批判を受け入れ、反省して変化していったほしい、というメッセージがまったく伝わらないような場合は、単に叱りたいから叱っていると解釈されてしまうでしょう。人間の応報感情、「目には目を!」「やられたらやり返す!」という感情を満たすためだけに、ぶん殴る代わりにどなっているのだから、と思われてしまいます。

しっかりと悪いところを指摘するという後ろ向きの部分と、教育の機会を与える前向きな部分と、そのバランスをうまく取るのは非常に難しい作業で、私自身ももちろんうまくできるわけではありません。しかし、そのバランスを取ることをあきらめては、私たちはお互いを高め合うということが一切できなくなりまふ。

(和泉悠『悪口ってなんだろう』による)